



Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

◆点鐘：長澤 裕二 会長 ◆ロータリーソング：それこそロータリー
◆司会：平田 智則 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル

世界に希望を生み出そう



第2992回例会 令和5年9月25日(月)

会長あいさつ

長澤 裕二 会長



来月の23日に映画例会やります。映画例会で何を上映するかというのはいつも頭を悩ますところでございまして、フォーラムという映画館は他の映画館が上映しない映画をどう上映するかという目的で作った映画館ですので、うちでしかやらない、

フォーラムでしかやらない映画をなんとか見ていただきたいということで、毎回試写を見て厳選しています。フォーラムしかやらない映画で、なおかつ皆さんに見てもらえるような一般性のあるやつということで、要するに娯楽映画ではないんだけど娯乐的にも見られるし、見て良かったなあとで思ってもらえるような映画、特に奥様から「フォーラムの映画例会を楽しみにしているんだ」というふうに言われるような映画をどう厳選するかというのが毎回頭を悩ますことで、今回もぎりぎりまで悩んで、『ロスト・キング 500年越しの運命』という映画を上映することにしました。

これは実話で、リチャード3世という実在のイギリスの王様のお墓がないと。何故ないのかというのは、シェイクスピアがリチャード3世のことをすごく良くない王様だったというふうに書いているらしいんですね。でも実際は違うんじゃないかと。非業な最期を遂げたのでお墓が残っていないと。今ないので、どこにあるんだろうということで、実はこれは11年前に見つかったんですね。それも見つけたのが素人、歴史を調べている女性の方で、主婦の人が11年前にそれを発見したということで、それが映画になったやつです。だからそういう意味では実話なんですね。シェイクスピアの時代に、リチャード3世というのは悪い奴だ、みたいな感じで書いてあるんですけど、それはどちらかというとその後ろの王様たちが前の人たちを悪く言わないと自分たちが浮かばないので、だからそういうふうによく言ったと。それをシェイクスピアが真に受けて書いたんじゃないかというふうにはイギリスでは調べている人がいるんですね。それでリチャード3世の会みたいな感じなのがあって、それで墓をずーっと探していて、ようやく見つけたと。それを見つけたのが普通の主婦だったというお話で、それを映画化したものです。こんな映画、なかなか普通は上映しても見てもらえないので、ぜひ皆さんに見ていただきたいということで例会にしましたので、ぜひ奥様を誘っておいでいただければなと思います。

幹事報告

三沢 大介 幹事

●来週、10月1日(日曜日)、最上川清掃活動が開催されます。7時半までひまわり温泉ゆ・ら・らのほうに向かっていただくと、誘導員が立っております。皆さんの各テーブルにも駐車案内ということでA3サイズの地図がありますけれども、ちょっとわかりづらいところもあると思われます。その際はゆ・ら・らを目指して来ていただければわかるように誘導員が立っておりますので、よろしく願います。当日は7時半まで集合で、持ち物は特にありません。清掃活動をやって、そのあと芋煮、おにぎりを食べて解散という流れになっております。

●本日、米山奨学生のジョン・チャンビンさんが来ております。会長より奨学金のお渡しを願います。

●本日、米山学友会よりデン・ウデンさんが来ておりますので、会長より奨学金の贈呈を願います。

○デン・ウデン奨学生よりひとこと

皆さま、こんにちは。本日、山形西ロータリークラブに来て例会に参加することができて、とても嬉しい限りです。今回のお昼の通常例会に参加するのは初めてです。皆さまとお会いすることと卓話を聴けること、両方楽しみにして来ました。

近況報告をさせていただきます。修論と就職活動を今がんばっているところです。修論では、残り最終章で完成する予定です。就活では、庄内企業に1社内定をいただきましたが、ほかの企業さんも受けてみる予定です。最後になりますが、今年の大学院のパンフレットを持ってきました。ほかの院生の方と私を載せている写真を表紙で使っていますので、もしお時間がございましたらぜひご覧になっていただければと思います。本日、奨学金をいただくことを心から感謝しております。ありがとうございました。



委員会報告

親睦・家族委員会

●本年度のお誕生日プレゼントでございますが、昨年同様、こちらのカタログギフトで皆さまよりお好みの商品を選んでいただく形式を取らせていただいております。本日、レターケースにこちらのカタログと、中に申込用紙を入れさせていただきます。こちら、1部ずつあるかどうか確認をお願いいたします。申込方法でございますが、中の用紙にお好みの景品番号と、あとは商品名を書いていただき、掲載されている企業様に直接ファクスでお申込みをお願いいたします。事務局ではなくて掲載企業様のファクス番号が書いてありますので、そちらのほうに直接お申込みをいただければと思います。誕生日月にかかわらず、随時お申込みのほうは可能でございますので、何卒よろしくをお願いいたします。ご案内というか準備が遅れまして大変申し訳ございませんでした。何卒よろしくをお願いいたします。

ニコニコ BOX

〈9月25日〉

長澤裕二会長／息子の家を訪ねました

この春から佐久市に引っ越した息子たちを訪ねました。仕事は渋谷なのですが、リモートが多いので、孫の教育を考えて長野県の佐久市にこの春から住んでいます。先週金、土、日と、始めて訪ねました。雄大なところでした。

三沢大介さん／ブービーメーカー

23日に開催された球風会で、ブービーメーカーを頂戴しました。いわゆるビリということ。とても楽しい1日でした。ありがとうございました。

横沢善則さん／ジョン・チャンビンくんの卓話

本年、カウンセラーを務めさせていただいております。本日は米山奨学生ジョン・チャンビンくんから卓話をしていただきます。日本語も素晴らしく、日本での経験を生かして大きく成長していくことを期待しております。



ゲスト卓話



私が描く夢、未来 在住外国人の防災の現状と課題

ジョン・チャンビンさん

〔米山奨学生〕

皆さんこんにちは。本日奨学金をいただき、そして卓話をする機会をいただき、本当にありがとうございます。米山奨学生のジョン・チャンビンと申します。

発表を始める前に、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は韓国のソウルで生まれ育ち、2019年10月に初めて日本に来ました。そして今年の4月から米山奨学生として山形西クラブにお世話になっております。今は山形大学の地域教育文化学部で教育を学んでいます。

卓話の題名が「私が描く未来・夢」であり、少し大げさになってはいますが、今日は抽象的な内容より、私の具体的な話をしたいと思います。

現在大学で教育について学んでいる私は、特に日本の防災教育に興味を持つようになりました。私は日本に来る前まで、ちゃんと災害を経験したことがありませんでした。韓国で経験した災害だと大雨程度であり、例えば地震の場合、高校の時に「誰か隣の人とかが貧乏ゆすりしているのかな」と思う程度の弱い地震などが私の被災経験のすべてでした。

しかし、山形で初めて地震を経験した私は「比較的地震が少ないと言われている山形がこんな強さなら、人が亡くなる災害っていったいどれくらいなんだろう」と思い、外国人と日本人との防災意識の違いを実感しました。

個人的には韓国の場合、地震規模やその被害程度に応じた対処方法が子どもたちに全く伝わっていないのが日本との違いであり、これからの課題だと思いました。

このように、私を含め、防災意識や防災に関する知識が日本人とは違う在住外国人のための防災教育も必要だと思い、このようなことを私の卒業論文のテーマに決めて、現在研究を進めています。

ここからはパワーポイントを使って発表していきたいと思っております。内容のテーマは「在住外国人の防災の現状と課題」です。研究背景、先行研究、本研究の目的と研究計画、今後の研究について述べていきます。

はじめに研究背景です。日本では毎年、自然災害により多くの人命や財産が失われています。内閣府の防災情報ページに載せられている「世界の災害に比較する日本の災害」の資料によると、日本は地震や台風、洪水、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっており、2011年東日本大震災など多くの自然災害が発生しています。世界全体に占める日本の災害発生割合は、マグニチュード6以上の地震回数20.8%、災害被害額18.3%、活火山数が7.0%など、世界の0.25%の国土面積に比較して非常に高くなっており、世界有数の災害大国と呼ばれています。

このようなことから、国土的に災害が発生しやすい日本においては、災害に対する防災意識の向上や準備が不可欠です。一方、その流れに取り残されている人々がいいます。それは在住外国人です。法務省の登記によると、日本で生活する外国人の数は、新型コロナウイルス感染症の拡大が本格的となる直前の2019年末では約293万人であり、これは同時期の日本の人口1億2,615万人の約2%に達しています。これは日本で生活している人の50人に1人

が外国人ということになります。

このような現状から、周囲の人と協力して助けあう共助の考え方で今後の災害発生に備え、在住外国人においても日頃から防災意識を高めることが重要であると考えます。

今後もより多くの外国人が日本で過ごすことが予想されますが、地震などの災害時、外国人の死亡率は日本人の死亡率よりも高いです。以下は阪神・淡路大震災における在住外国人の被害状況を示しているグラフです。被災者のうち、死者や負傷者の数を日本人と外国人で比べてみると、明らかに外国人のほうが高い割合で被害していることが分かります。

一般社団法人都市防災研究所という団体によると、1995年の阪神・淡路大震災以外にも2004年の新潟県中越地震の中でたくさんの外国人の死亡が報告されています。

地震発生時、外国人の死亡率が日本人の死亡率より高い原因はさまざまなことが考えられます。そこで、過去に起きた災害時の具体的な外国人問題について調べてみました。阪神・淡路大震災の際、兵庫県には約10万人の外国人がいましたが、特に神戸には在留期間が比較的短いニューカマーが多く、そのニューカマーが直面した問題を、言語の壁と法的立場の問題から指摘されています。

東日本大震災でも「避難」という言葉が理解できず、災害に遭うなど言葉の壁による問題点がみられましたが、持ち込んだ生活用品の後始末方法やトイレの使い方などの文化摩擦の問題もありました。

熊本地震では国籍や留学生といったコミュニティごとで情報を共有していたため、希薄な近所関係でその情報収集が困難だった問題がありました。

このように言語や文化の違いから、日本人以上に不安や恐怖を感じていることを想定し、現在各自治体では外国人向けの防災リーフレットなど、資料の多言語化や優しい日本語に変えた防災資料が提案されているのですが、これだけでは日本人からの観点にすぎず、対策として不十分です。例えば熊本地震での日本語があまりできない、あるいはムスリムなど特別な文化背景を持つ外国人はさらに大きなストレスを感じ、避難所から退去するケースがありました。

私は先行研究を調べていく中で、災害時の在住外国人の根本的な問題は、日本の地域コミュニティとの距離感から始まると考えました。日本人との言葉の壁や希薄な近所関係は防災教育、防災意識の不足を生み、このようなことを打開するには同じ地域に暮らす日本人と在住外国人が交流できるイベントなどが必要だと考えました。

そこで、今、卒業論文のテーマで進めている本研究では、在住外国人の防災意識を高める手立て、その方策として、災害の中でも地震に焦点を当て、在住外国人が地域コミュニティの一員として参加することができる防災活動を作ることを目的としています。このようなことのためには、外国人が日本のことを学ぶだけでなく、日本人住民も外国人に対しての理解を深めるべきだと思います。なぜかと言うと、コミュニティ形成において、防災に対する構成員たちの認識の共有は大事だからです。

一方、海外では防災という概念が希薄な国も多く、防災意識という考えがないこともあります。在住外国人の中では、母国では地震を経験したことがない人も多いです。その一例として、隣の国、韓国の場合も、非常に近い隣国であるにも関わらず、自然災害の状況は日本とは大きく異なっています。以下は過去110年間に発生したマグニチュード6以上の地震を地図に示した地震の分布図です。韓国は過去110年間、マグニチュード6以上の地震が1度もなく、日本に比べて韓国のほうが明らかに地震の発生頻度が低いことがわかります。つまり、韓国からの訪日客の

多くは大きな地震を体験したことのない人々です。したがって、現段階では在住外国人の理解を深め、よりよい防災プログラムを作るため、在住外国人の国籍の上位を占める韓国の防災に関する現状・課題および日本との違いについて調べています。

そこで、韓国の観測史上最大の地震であり、近年韓国で地震への関心が高まったきっかけになった慶州、これはキョンジュという読み方になるんですけど、キョンジュ地震の事例を紹介したいと思います。2016年、韓国で起きたマグニチュード5.8、日本の震度5から6弱程度の地震をきっかけに、2017年から学生と教職員は学校で火災・地震など各種災害に備えた訓練を年2回以上義務的に受けるようになりました。しかし、現場でこのような生徒指導を担当している教師も災害の経験が少なく、これまで地震、避難訓練を受けたことがない人がほとんどです。したがって教員側もマニュアル以上の背景知識がないため、災害時の実質的な対応の教育が行われていないとのこと。以上のように、韓国人を含め、日本に在住している外国人住民は国や教育環境によって防災意識もさまざまです。

一方、山形にも現在約8,000人の外国人住民が暮らしています。今までの内容を基にして、私は現在卒業論文の研究のほかに、山形県の在住外国人に向けた防災パンフレットを作るプロジェクトを進めております。プロジェクトのタイトルがあるんですけど、「YOUは何しに避難所へ？」という、皆さんご存じのとおり有名なテレビ番組のタイトルをパロディにしたそのタイトルで「山形大学学生チャレンジプロジェクト」という学内の募集に応募したのですが、企画に選定され、予算ももらうことができました。パンフレットには自然災害の種類、あと災害時の行動、避難所の場所、緊急時の連絡先、災害時の復興支援などの情報を掲載する予定であります。また、災害時に役立つ日本語のフレーズを、状況を説明する絵とともに掲載し、外国人もわかりやすいように工夫していく予定です。このように外国人向けの情報を提供し、地域の住民とコミュニケーションを円滑にすることで相互理解を深め、地域全体の防災力の向上に寄与できると予想しています。

このプロジェクトを通して、お世話になった山形西ロータリーの皆さんに少しでも恩返しができればと考えています。以上、「私が描く夢、未来」でした。ご清聴ありがとうございます。

一応私が準備してきた内容はここまでなので、何か質問とかある方は。

◆質問者／仕事はどんなことやろうと思っていますか。2年後になるかとは思いますが、どんなものを作りたいと思っているんですか。

○ジョン・チャンビン奨学生／兵役は義務となっております。行くしかないのですが、韓国に行き、今はちょっと短くなってきて1年半になってるんですけど、その1年半の兵役が終わったら、できれば早めに日本に戻ってきて、日本で就職したいなと思って、今から2年後ぐらいですかね、1年半の兵役が終わって、その準備期間も必要だと思うので、2年後とかを予想しています。

仕事は、今のところ考えている仕事は大使館、日本にある韓国の大使館で働きたいなというふうに思っています。実はビザとかそういう書類的な問題で仙台にある韓国の領事館に1回行ったことがありまして、そこで同じ山形大学出身の韓国人の方が働いているのを見て、結構話す機会があったんですけど、そこで領事館での仕事が魅力的だなというふうに思って、大使館での就職を考えています。

◆質問者／僕は日本人だから日本のパスポートを持ってるんだけど、そこにはね、外務大臣が書くんだけれど、この入国を許可された、僕らがね、に対しては最大の保護をお願いするというふうに書いてあるの。それをアクセプトして入国させるのでね。どういうことかという、災害時には自国民よりもそのパスポートでアクセプトした人を優先しなきゃいけないという国際ルールがあるの。それはご存じですか？

○ジョン・チャンビン奨学生／はい。ある程度は知っていました。

◆質問者／韓国のパスポートも、それ、同じように書いてある？

○ジョン・チャンビン奨学生／そうですね。

◆質問者／今、それ、あるのかどうか見てね、そうすると、いろんな視点で論文って作っていくわけだけれども、単一的な見方じゃなくしているんな見方で書いていくと深みが出ます。質問にならなかったね。

○ジョン・チャンビン奨学生／いえ、ご意見ありがとうございます。

◆質問者／いい論文を書いてください。

○ジョン・チャンビン奨学生／わかりました。はい。とても参考になります。ありがとうございます。

◆質問者／非常に上手な日本語でやられてますけれども、日本語を勉強した経緯というか、今まで日本に入る前に韓国で日本語を勉強したとか、いろんな日本語に触れてきたその歴史というか、あると思うんですけど、それを紹介していただけますか。

○ジョン・チャンビン奨学生／日本語との初めての出会いというか、それは高校の時、学校の第2外国語として中国語と日本語が開設されており、どっちかを必ず、前期に例えば中国語の授業が入っていたら後期には日本語みたいな、1学期ごとにそういう授業があったんですけど、それが日本語の初めての出会いという感じでした。

でもさすがに、あの時までは日本語のひらがなとかカタカナくらいしか、あと挨拶のこんにちは、こんばんはくらいしか勉強ができなくて、全然しゃべれたりとかはなかったんですけど、でも学校で学んだひらがなとかカタカナを活用するというか、それを生かして1回高校を卒業してから日本観光に旅行で来たことがあるんですけど、東京はすごい人が混んでいるところじゃないですか。なのに、すごく、私が普通に町のお店に入っても、外国人でカタコトの日本語をしゃべってもすごく優しく親切に接客されたり、そういうふうに参加されて入ったお店の料理も、食べ物もすごくおいしくて、日本に対しての印象がすごく好印象になりました。それが決定的なきっかけになって、日本のことが好きになって、もっと日本語を勉強して、いつかまた旅行に行ったりしても日本の方々と円滑にしゃべれるようになりたいというふうに思い、勉強を始めました。

それで勉強を始めたら、年も、ここまで言うとは長くなるかもしれないのですが、年もちょうど高校を卒業して大学に入る年になったし、いろいろ考えた結果、日本の大学に進学したいというふうに、留学に行きたいというふうに思って、今この山形大学に通っております。

◆質問者／私はテコンドーというスポーツをしていて、山形大学で20年間監督をやってきました、テコンドーは韓国の国技、格闘技なんですけれども、日本と韓国の共通の言葉であったり、文化であったり、風習というもの、こちらに留学されて何か気づいたことというのはございましたか。スポーツとは関係なく、生活をしていて、言葉とか、習慣とか、何か感じたことがあれば、お聞かせください。

○ジョン・チャンビン奨学生／質問ありがとうございます。共通点としては、一番生活上で感じたことは、食べ物がお互い、もちろん厳密に言えば種類とかは全然違うんですけど、例えば韓国人の人が日本の食べ物を食べた時と、日本人の方が韓国の食べ物を食べた時と、結構相性がいいんじゃないかというふうに思って、韓国人のほとんどは和食というものを食べても、例えば全然違う国、アメリカとかの人は苦手な人もいたりすると思うんですけど、韓国人はそんなにいないというふうに思って、逆に日本の方でも韓国料理好きな方々が結構いらっちゃって、それは文化的な共通点と言えばちょっとずれてるかもしれないんですけど、少し似てるなというふうに思いました。

あと、敬語の文化とかなんですけど、大きな流れは韓国の敬語の文化、使い方と似ていて、目上の人前でちゃんと敬語を使ったりとかがありまして、例えば周りに中国人の友達とかいるんですけど、中国の方々は敬語の文化は日韓よりは薄いらしくて、ちゃんと勉強してない人は、初心者、日本語初級者の中国の方だと敬語の使い方があんまりなじみのない感じが、失礼かもしれないんですけど個人的には感じたことがあって、でも韓国だと韓国語でも普通に敬語の表現がありますし、それも似てるなというふうに思いました。ただ、少し細かい違いもありまして、例えば、僕は教育学部で日本の小学校に実際に行って教育実習をやったことがあるんですけど、小学生が、子どもが先生にたまに敬語じゃなくてタメ口を言うのは、すごいカルチャーショックだったんですよ。韓国だったら、正直に言えばあり得ないっていうか、そういうのがあるんですけど、日本だとそれが文化的にちょっと言っても全然許せるというか大丈夫みたいな感じだったので、それはちょっと気づきがありました。以上です。

ありがとうございました。



本日出席 (9 / 25)	会員総数	出席会員数
	102名	60名